

平成18年度 第1回 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

日 時 平成18年11月10日(金) 14時00分～16時20分

場 所 米子ワシントンホテルプラザ

出席者 委 員： 金田 昭 副井 裕 藤田教正
森脇 孝 矢倉敏久 矢末 誠 山口和彦

本 校： 校 長 水島和夫 副 校 長 小田耕平
教務主事 香川 律 学生主事 山藤良治 寮務主事 竹中敦司
事務部長 松本 勤
庶務課長 渡邊正則 会計課長 阿部秀一 学生課長 山根茂雄

テーマ 「平成17年度 第1回(高専の地域貢献)・第2回(学生指導と課外活動)・第3回(教育研究活動) 評議員会の意見・提言に対する対応状況等」

1. 会長選出(委員任期2年)

米子工業高等専門学校評議員会規則第5条により、鳥取大学工学部長の副井 裕委員が会長に再選された。

2. 「国立高専の整備について<新たな飛躍を目指して>」

本題テーマの前に、高専を取り巻く内外の諸情勢が極めて厳しい現状において、今後高専をどのように整備していくべきかについて高専機構でまとめられた「国立高専の整備について<新たな飛躍を目指して>」と題した、資料について校長から説明があった。

各委員からの質疑等

(○印：各委員，●印：本校)

○ 学生の獲得ということで問題になるのが、教育の質の問題等があり、恐らく今がその過渡期であろうと思うし、いろんな面で子供が育ってない状態にあると思う。

学力もそうですが、それ以前の問題に対する高専の受け取る対応について、どのようなことを考えておられますか。

- 「学習」以前の問題として、例えば今、多く問題になっているいじめの問題などにおいても、本校も真剣にしっかりとした対応で取り組んでいかなければいけないと思っています。

それともう一つは、例えば入試についても、まず、単に成績が良いから、それで本校にたまたま試験を受けて入るということではなく、米子高専に入って本当にしっかり勉強したいという意欲を持った学生をより多く受け入れていく、こういうことが非常に重要だと思っています。

入学試験についても、高校の入試と本校の入試が両方受験可能ですので、高校の進学校に受かって、そちらではなく本校の方に入学した学生もたくさんいますし、反対に、すべり止めのつもりで本校を受けたが、本命の進学校が不合格だったので仕方なしに米子高専に、とこのような入学者も大分増えました。

そういうことで「学習」以前の問題として、メンタルな問題等が出てきたりします。

そこで、これは本校の入試について、昨年と比べて一つ工夫したことがあります。

それは推薦入試で従来3割程度推薦受け入れをしていましたが、来年度の入学試験から1割増の、4割程度というふうを増やしました。

専願による推薦入学拡充でということで、是非本校を目指したいという学生を今までよりも多く受け入れて、学生の質の確保、いわゆるやる気のある学生を育てていきたいと考えています。

- よくわかるけれど、現時点で、小学校の段階で1年生がもう授業になっていない状況が増えている訳で、授業どころではなく、既に学級崩壊を起こしている学校が沢山あります。

そこで、30人学級、20人学級という少人数学級はそういうことから始まっていると思う。

当然現状より子供のかずが2割以上も減ってしまうことになると、推薦でどのような子が目指して来るかということも問題ですし、今度は人的な問題として、教員の数の問題になるのではないかと危惧している。

結局、このような状況の小・中学生を受け入れている高専でもう40人の学生を1人の教員で見ていくことが、本当にこれから先出来るのか心配だ。今の小学校、中学校を見ていると、この状況はしばらく続くと思うし、世の中が変わっていかないと、当然このような状況が続いていくと思う。

だから、30人学級、20人学級ということを今後考える時期が来ると思うし、そうしなければほかの何人かの学生によって、授業が成り立たない状況になっていくと思う。

そのようなことにならないよう、対応を本当に考えてゆかないと、問題が大きくなってしまうと思う。

- これは教員にとって、当然質の高い教育をするには少人数教育が望ましいことで、例えば現状の教員数のままで、受け入れ人数を減らすことが可能であれば、それが一番望ましいことであるかもしれません。

しかし、平成22年までに人件費総枠の5%減等の厳しい行財政事情があり、これは大学も高専も同じことです。

このような状況の中で、米子高専だけが35人学級にするということではできません。

ただ、将来的に例えば、学科の再編等で入学定員を減らして、それにより教育の質を確保していく、あるいは行財政事情の問題がなくなるというような時点では、そういう学級人数の変更が可能であるかもしれませんが、現時点ではできないことになっています。

1 学科当たりの入学定員の減はおこなわず学科数の減等というのが高専機構の整備方針であり、本校もその整備方針に則って実施するしかないのが現状であります。

3. 校長から、平成17年度第1回評議員テーマ「高専の地域貢献」についての各委員からの意見・提言に対する対応状況等について資料に基づき説明があった。

各委員からの質疑等

(○印：各委員，●印：本校)

- 共同研究、受託研究ということで、いろんな研究発表をしておられるように、出来たらこのような研究等を新聞報道等に積極的にPRするよう是非やっていただきたい。

よく見るのは卒業式とか、入学式などの高専の報道はありますが、それだけではなく、地域貢献部分でも、いわゆる学生がどのようなことを行っているのか主張されると、高専が身近にあるということが目に見えるようになるので、是非実施してほしいと思う。それが将来的にはいろんな面で波及効果が出てくると思っている。

それと教員の方々と地域との親交を深めることが大事なので、例えば今度、技術交流会を開催されるようですが、これの非常にまずい点は、この技術交流会の開催日が鳥取大学の同様の会の開催の日と同じで、また同じ時間です。このような計画をされる時にもう少し調整をしていただき、周りの方々がどちらに出ようか困らないようにしていただきたいと思います。

同じ内容のものが両方で開催されるということは非常にまずいと思います。

- 私も参加の機会があり、学校側がいいというだけで決めてしまうと、鳥取大学と開催時期等が重なったりするので、お互いの協力会の事務局どうしが話し合う方が早いのではないかと思うのですが、その点難しいものなのですか。

- やはり事務局どうしの方が早いと思うので、次回からということでお願いします。

○ 文部科学大臣賞を受賞するような講義というのは、どういうところが評価されたと思われませんか。

● 簡単に紹介しますと、これまでは板書をして、それから説明を行っていたわけですが、ところが板書をする時間が非常にかかり、演習に回す時間が少なくなるということで、パワーポイントを使って講義をする。そのパワーポイントの内容については前もって資料を計画的に配布でき、画面を実際に目で見て原理が良くわかるという工夫がされています。それによって、講義の時間を少しでも短縮することが出来て、その分を演習に回せるようになるということです。

以前の方法と新しい方法との比較を検討し、その成果を発表され、効果があると認められたことで文部科学大臣賞を受賞されました。

それを今、他の先生方もその方法で実施され、大いに波及効果がでてきています。

○ お互いを評価されるようなことを、実施されていますか。

例えば、先生方がある先生の講義の場に行って授業を聞いて、後でそれを評価するというようなことです。

● 公開授業ということで、一部実施していますが、ただ回数としてはやや少ないというのが現状です。

○ 公開授業は、結構効果があると考えており、鳥取大学も公開授業とその評価を実施していますが、現実には6～7年連続して実施して見て、効果が上がっていることが分かったように思います。

後で、評価をしないとダメですけど、研修や、授業が終わった後、その日に別の時間に集まってここが良い、ここが悪いという論議を実施していくことで効果が上がっていくので、是非実施されたら良いと思います。

4. 校長から、平成17年度第2回評議員会テーマ「学生指導と課外活動」についての各委員からの意見・提言に対する対応状況等について資料に基づき説明があった。

各委員からの質疑等

(○印：各委員，●印：本校)

○ 課外活動についての、参加学生等の費用の負担ですが、後援会として援助をしていますが、個人負担があるのはどのような考え方でしょうか。

- 基本的に課外活動に係る費用については、全体を考えて、交通費は後援会の方で全額負担していただいています。それと宿泊費については半額を負担してもらっています。

ただ、問題となるのは、例えばデザコンの場合ですと、エントリーする学生以外にも見学等で参加させたいということになると、その学生については後援会の援助を受けることが出来ません。そこで参加者全員で負担し合うという形にしています。

それに宿泊費の半額負担分があるということです。

- 費用を負担し合うということはちょっと問題があると思う。
このエントリーする学生以外の学生費用負担は、別途考えなければいけないと思うが。

- クラブ活動等を含めて、全体の援助をいただいている金額の内で支援していくということで、援助の規定を定めて運用しています。

- それは、保護者にはきちんと連絡してありますか。

- 学生自身は、そういう後援会からの援助の方針については知っていると思います。

- 今度、12月の8、9、10日に鳥取産業技術フェアとして、今度は鳥取ではなく米子で中海圏域のものづくりフェアの形で開催します。

米子高専と米子工業高校に出展をお願いしています。

出展に伴い学生が出られる場合は旅費等を負担しますということで、事前に経費要求を出してもらっていますが、米子高専の場合は意外と少なく4万円位で、米子工業高校からの要求は30万円位となっています。

ものづくりの体験コーナーの担当もお願いしようと思っており、テクノセンター長の足立先生にお願いし色々と実施してもらおうと思っていますが、それにしても米子高専は要求額が少ないので、こちらとしてはもっと負担しても良いと思っているので、もう一度良く検討をお願いします。

また、これが課外授業という形にはならないのでしょうか。

- いいチャンスなので、持ち帰って早速検討します。

5. 校長から、平成17年度第3回評議委員会テーマ「教育研究活動」についての各委員からの意見・提言に対する対応状況等について資料に基づき説明があった。

各委員からの質疑等

(○印：各委員，●印：本校)

- 以前テレビで大学進学の問題で、高専から大学への編入学というような格好で目指すところに行くというようなことを見たように思いますが、実際中学校から入って来る場合に、高専から最終的には大学に行きたいということをイメージして入学して来る子というのは何割位いるのでしょうか。

それとも最初からそのような希望ではなくて、学生生活を送る中で最終的に大学進学を選択をするというイメージが生まれてくるのか、そのあたりはどうなっているのでしょうか。

- 実数については掴んでいませんが大学進学を、高専入学時から意識している学生は若干いる位です。

大学進学というのは、高専からの場合編入学となり、これが注目されたのは30年前からです。

高専によっては、卒業生の半数程度が大学に進学している例もあります。

米子高専は、やはりそれはおかしいと、高専の本来の役割は高等教育機関としての技術者教育とし、実践的技術者の養成を行っています。

最近では、就職が7割、進学が3割であり、その内1割は本校専攻科に進学しています。

本校の進学率は、他校に比べれば低い状況にあります。

- 補足しますと、全国55ある高専の中で、一部ですが確かに高専によってはやはり進学予備校のごとき高専があり、卒業生の内5割以上が進学というところもあります。

私ども米子高専の特色としては、先程申しましたように7割の就職ということでもありますように、決して進学予備校的な高専ではないというのが特色だと思います。

- 進学予備校のごとくいわれるのは、やはり地元に残っていないからだと思う。要するに県内企業が採用計画をまとめるのが大体年度、年度であり、求人活動をする頃には就職希望者が残っていない。

その分県内企業の雇用情勢というのは非常に難しくなっている。

それと企業は良い人材、技術者として育ててくれる人材を採りたいということもあって、やはり県内の人いわゆる地元の間人が欲しい訳ですが、いざ求人活動に行くと、高専はもう終わりましたというのが現状で、いつ頃から就職活動をしたら良いのか、あまり早くから話をしてもどうかと、いつも疑問に感じているがそのあたりどうなのか。

- 先ず活用してもらいたいのがインターンシップです。これは4年生から実施します。

高専のインターンシップを実施する場合、大学と違って学生の年齢は15から20歳であり、あまり地元企業のことを良く知りません。

それから、これもはっきり申しますが、保護者の方もあまり地元企業のことを良くご存知ないから、逃げられるのです。これが現状です。

そこで、地元の中小企業のことを学生に良く知ってもらえるように、そういう関係の本を読む、就職情報もよく見る等の機会を与えることが必要である。

一番大事なことは学生自身が地元企業のことを良く知って、自分で選んでそこへ就職することだと思います。

したがって、インターンシップが効果があると考えてるので、是非受け入れていただき、地元企業の良さ、力、これを是非見せていただきたい、これは是非お願いしたいと思います。

- 専攻科の学生については、インターンシップを卒論の一環としてそのような教育が出来ますか。

例えば、授業の中にもPBLというのがあったと思います。

ロボコン、プロコン等実践的複合的ものづくり教育、また、長期間のインターンシップ（本科4年生だと夏の休業中だけということなので期間が短い。）などどうでしょうか。

- 例えば共同研究という形で特別にカリキュラムの中に組み込んで、長期研修をしながら共同研究を進めていくということも可能ではないかと思います。

- 共同研究としては、実際、県の職員も長期研修として共同研究をかなり進めています。長期間のインターンシップが出来れば、高専もロボコン作成等にも活用出来るので是非お願いしたい。

そういうインターンシップからいろんな企業との付き合いが出来ることも十分あると思う。

- 先程校長が申したように、地域との連携強化は、正にそのような企業とのつながりを言っています。

地域連携教育の推進だということで、社会、企業、自治体等を互いに活用するということであり、是非実施できるよう考えて行きたいと思っています。

平成 16 年度
評 議 員 会

「意見・提言」に対する対応状況等

第 1 回評議員会 H16.7.13

テーマ：「本校の現状—法人化対応,中期計画等について—」

第 2 回評議員会 H17.3.14

テーマ：「入学生の確保」・「社会に送り出す」

平成 16 年度 第 1 回評議員会

テーマ：「本校の現状—法人化対応,中期計画等について—」 H16.7.13

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>即戦力となる実践的な人材の育成におよ一層努力して欲しい。</p> <p>インターンシップを更に充実してもらいたい。</p> <p>産業創出支援館を利用してもらいたい。</p> <p>特許庁指定の学術団体に申請すべきである。</p> <p>地域貢献の積極的なPRと、分かりやすい窓口を開いておく必要がある。</p> <p>限られた授業時間でいかにして高度な知識・技術を習得させられるか検討する必要がある。</p>	<p>これまでの卒業生の多くが企業での即戦力として評価を受けていることからこの件に関しては一応満足している。</p> <p>平成 16 年に打ち出した本校の中期計画にも「実践的な技術教育」を行うことを掲げており教養教育・専門教育それぞれで具体的方策も示すなど常にこのことは第一義に考えていくつもりである。</p> <p>不況のため受け入れて頂けなかった時代を経て、今一度、長期インターンシップを含めた、産学共同職業教育を考えたい。</p> <p>高専 Robocon ロボット製作、共同研究などで活用させて頂いている。</p> <p>平成 16 年 12 月 9 日付で指定済</p> <p>平成 5 年よりシステム化技術教育・開発センター」を設置し、地域貢献（産官学連携）に対応してきた。平成 16 年組織を改組し「地域共同テクノセンター」とし、これに当たっている。そこを中心とした PR 活動も行っており、これはどしどし推進したい。</p> <p>現在、J A B E E 受審に向けて、本科・専攻科の新しいカリキュラム検討を行っている。</p>	<p>本科では、5 日間以上（1 単位）、専攻科では 10 日間以上（2 単位）を基本としてインターンシップを行っている。期間については、本校の授業体制や受け入れ企業の事情等もあり、現状では長期インターンシップを実施していない。数ヶ月のインターンシップを計画するには、受け入れ企業との調整や校内の体制の検討が必要となる。</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>学校運営を大幅に合理化すると共に自己収入の増加策の検討も必要である。</p> <p>教職員の意識改革が非常に大切になる。</p> <p>外部資金等にオーバーヘッドシステム導入の検討を</p> <p>組織としての認証評価に対する準備が必要である。</p> <p>JABEE 取得は他高専より先行取得が望ましい。</p>	<p>J A B E E の教育プログラムでは、国際的に通用する技術者を養成するために、いくつかの基準が設けられており、その基準に沿った教育内容が要求されている。その基準の中で、それぞれの教科分野で必要な学習時間が設定されており、この基準に沿ってカリキュラムの検討が現在行われている。また、平成19年度に、本校は学位授与機構から認証評価を受けることになっており、その認証評価に向けて、認証評価の基準に沿って本校の教育についての点検評価・改善システムの構築を進めているところである。その基準には学生の達成度評価、授業アンケート評価といった評価項目があり、このような項目から本校の教育目標に対しての到達度も評価され、その評価結果に基づいた改善がなされることになる。</p> <p>又、学生諸君への周知はシラバスの整備・充実を進め徹底を図ることになっている。</p> <p>情報化を推進し、人員削減などに対応している。</p> <p>FD 講習会、インセンティブの付与等で積極的に啓蒙活動を行っている。</p> <p>平成17年度より実施した。共同研究5%、受託研究15%、寄附金5%相当額を間接経費として留保し、本校の教育研究環境の維持・改善のために活用することとした。</p> <p>平成17年12月に評価・改善委員会を設置し、平成19年度の認証評価に対応する体制を整えた。</p> <p>既に JABEE を取得した高専は多くあり、先行取得とはなら</p>	<p>本校は専攻科の設置が大幅に遅れたこともあり、JABEE 対応</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
外部資金獲得に積極的挑戦をして欲しい。	<p>なかったが、前述のように受審に向けて準備中である。</p> <p>外部資金獲得者には予算的措置を講ずるなどの施策を実施し、これが増える方向に持っていていっている。</p> <p>このことはご指摘どおり継続的に実施したい。</p>	に遅れをとった。

平成 16 年度 第 2 回評議員会

テーマ：「入学生の確保」・「社会に送り出す」 H17.3.14

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>高専PRを対中学校プラス対小学校にもPRをしてはどうか。</p> <p>PRビデオから一步踏み授業で使えるものを作成してはどうか。</p> <p>公開講座受講者数が少なく、PR不足ではないか。</p> <p>出前授業を行ってはどうか。</p> <p>学生数の増は考えられないか。</p>	<p>小学校に対するPRも必要であると考えている。ただ、例えば高専の役割であるとか、高専での学園生活等、中学校、中学生に対するものとは別の形でのPRがいてと考え、小学生対象の公開講座、また平成17年度からは組織的に出前講座、ジョイント講座を開始しPRに努めている。</p> <p>「ビデオ教材」の開発も良いことであるので検討する。</p> <p>地方自治体が設けている案内窓口との連携を強化するなどPR方法を検討する。</p> <p>これまでも、教職員の伝を頼ってこられた方にはそれなりの対応をしてきたが、平成17年度からは組織的にこれを制度化し実施しており、非常に好評である。</p> <p>考えてはいない。ただし、社会のニーズにより、学科の再編等は今後の課題である。</p>	<p>少子化に加え、教育すべき技術内容も高度化するなど、これ以上の定員増は考えていない。</p> <p>学生数の増は、授業料収入という観点から見るとプラス面もあるが、学生の人数が多くなると教員の目が届かなかったり、設備的な不足が生じたりすると</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>在学生の落ちこぼれを少なくする対策がとれないか。</p> <p>学校見学会を夏休み期間中の5日間位実施してはどうか。</p> <p>PRビデオに改善の余地が見受けられるため中海テレビ等のアドバイスを受けたらどうか。</p> <p>PRビデオに設備等の映像が無い、あればよりよくなるのでは。</p>	<p>兆候の見える学生の早期発見に努め、学級担任、保護者、そして学生、三者の意思の疎通を積極的に図るなどして対応したい。</p> <p>学校見学会などの体験入学は、本校のPRとしても重要である。現在、本校の学校見学会は原則として中学校3年生を対象としており、保護者や中学校教員に対しては進学説明会が行われているだけで体験的な見学会は行われていない。そこで、保護者も含めた学校見学会を学科長を中心にオープンキャンパスを年2回行う方向で検討中である。内容としては、1回は従来の専門学科での中学生の体験学習を中心とする学校見学会を実施し、もう1回は保護者と中学生向けの体験授業を中心とする学校見学会とすることで調整中である。</p> <p>現在PRビデオは放送部に依頼し作成しており、指導教員にご指摘の内容を伝える。</p> <p>中学生や一般向けPRビデオのため、研究設備などの紹介がなかったのだと思う、しかし確かに技術を売り物にする学校なので、研究設備等の紹介は必要と思う。次回のPRビデオを作成時には考慮したい。</p>	<p>いうマイナス面の方が大きく、学生数の増加は教育効果が上がらない可能性があるため、教育の質をキープすることからも現状では学生数の増を考えていない。しかし、進路変更に伴う中途退学者がいる現状では、これを踏まえた上での定員を超えた適度な人数の学生数を常に確保しなければならないため、高校からの編入学者の積極的な受け入れを行うと共に、中途退学者の減少に向けた更なる対策を行う必要がある。</p> <p>長期にわたる見学会は東・中部の生徒の宿泊場所が問題となる。</p> <p>予算的な面で業者には依頼していない。</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>PRビデオをホームページに等に載せてはどうか。</p> <p>県中部・東部をもう少し取り込むべきで、中国地方全体でもPR活動をしてはどうか。</p> <p>夏休みにモノを創る講座を増やしてはどうか。</p> <p>大学進学有利面をもっとPRしてはどうか。</p> <p>ビデオ以外に新聞を利用した行事・活動等のPRを行ったらどうか。</p> <p>企業等への就職者定着率の追跡調査をしてはどうか。</p> <p>就職或いは大学へ編入学し大学院を出て、活躍中の先輩の講演・集中講義等を行ってはどうか。</p> <p>1ヶ月程度の長期のインターンシップがよいのではないか。</p>	<p>広報委員会等で検討する。</p> <p>やる価値はあると思われるので広報委員会で検討する。</p> <p>増やす予定である。</p> <p>高専の設置目的に鑑み、妥当な程度に止めているがPR方法を検討する。</p> <p>地方紙や地元テレビ局には積極的にコンテンツを提供している。</p> <p>ご指摘の通りであるし、実施の方向で検討する。</p> <p>これまで夏休みの明けの1日を使って各種の講演会などを開催する特別日課を行っていた。そのうち、3年生のHRにおいては学科別に卒業生の講話を実施し、在学生から好評を得ていた。しかし、2年前の専攻科の設置に伴い、前期の授業日を15週確保の面から、この日課を組み込みにくいといった経緯があった。しかし、卒業生の社会体験談は在校生の進路の選択や学習意欲の向上に繋がることから、再度実施に向け検討を行う。</p> <p>非常勤講師とし授業を実施している学科もある。</p> <p>以前はあった。不況となり受け入れすら困難な時代を経て、今一度、企業に依頼するのが望ましい。</p>	<p>鳥取県では、地方紙や地元テレビ局が高専の活動をなかなか取り上げて頂けないのが現状である。</p> <p>卒業生の追跡調査などのため同窓会名簿を整備したのが10年前、初回の判明率98%は異例であったが、最近発行された名簿は判明率が落ちている。</p> <p>本科では、5日間以上(1単位)、専攻科では10日間以上(2単位)を基本としてインターンシップを行っている。期間については、本校の授業体制や受け入れ企業の事情等もあり、現状</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>専攻科修了者の進路はどうするのか。</p> <p>「モノづくり」についての考え方と「モノづくり」面で特長ある教育を考えるべき</p> <p>企業と連携した県の補助金申請を積極的に</p>	<p>大学院に進学する者,就職する者,本科と同じように進路指導は行う。</p> <p>ものづくりの基本は,ものづくりの実践を行うことであることから,本校においても実験実習を重視した実践的な技術教育の体制がとられている。また,本校の養成すべき人間像に基づいて学習・教育目標が設定されており,この目標に沿ったものづくり教育は特長ある教育であると考えている。</p> <p>さらに,経済産業省が進める「製造中核人材育成」との兼ね合いで検討中</p> <p>すでに実施しているし,今後とも推進する。</p>	<p>では長期インターンシップを実施していない。数ヶ月のインターンシップを計画するには,受け入れ企業との調整や校内の体制の検討が必要となる。</p>

平成 17 年度
評 議 員 会

「意見・提言」に対する対応状況等

第 1 回評議員会 H17.7.14

テーマ：「高専の地域貢献」

第 2 回評議員会 H17.12.20

テーマ：「学生指導と課外活動」

第 3 回評議員会 H18.3.30

テーマ：「教育研究活動」

平成 17 年度 第 1 回評議員会

テーマ：「高専の地域貢献」

H17.7.14

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>県が企業に補助している制度を十分利用し、国・地方の助成等に積極的に応募して資金を獲得されたい。</p> <p>新入生の公開講座参加状況を調査してはどうか。</p> <p>都会就職者のUターン希望者を登録し、地元就職を斡旋する制度はないか。</p> <p>県産業振興機構の産学官交流会へ多数参加を願う。</p> <p>共同研究、受託研究件数を2倍位にできないか。</p> <p>県の発明協会講師派遣の制度を利用してはどうか。</p>	<p>事務担当者から、全教職員に対し、国及び自治体等の助成金・補助金の案内をしているが、なかなか応募、さらには採択に至っていない。</p> <p>平成 17 年度新入生 207 名について、本校で平成 14 年度から 16 年度に開講した 7 講座を対象に調査を実施した結果、新入生のうち 23 名が受講（うち 6 名は 2 講座を受講）、おおむね 1 割程度が参加していた。</p> <p>また、新入生に対して、本校を志望した動機などの意識調査を毎年行っている。その中の受験に影響を受けた項目として、ロボコン・就職状況・大学編入学などが上位にある。</p> <p>システムとしては設けていないが、各学科の現、元就職担当教員（卒業時の担任）に卒業生からのアプローチがあったときには対応するようにしているのが現状である。</p> <p>ご指摘のようなシステムは難しいが今後用意すべきである。</p> <p>その都度校内へはアナウンスを行い参加を呼びかけている。割り当てによる動員など今後とも地道に呼びかける。</p> <p>地域共同テクノセンターで受け入れた技術相談については、全教職員に対し案内をし、意識の向上を図っている。</p> <p>数値目標の設定はしていないが、これらの実施者には予算的措置を講ずるなどの施策を実施し、着実に増えている。</p> <p>（社）発明協会鳥取県支部には、知的財産に関する授業支援や特許に関する相談などをすでに行っている。</p>	<p>特定の教員に集中する傾向がある。</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>県発明工夫展への学生参加を願う。</p> <p>教員シーズ集は活字ばかりでなくもう少しビジュアルにしたらどうか。</p> <p>地域・社会貢献観点から学会等の地元開催を検討できないか。</p> <p>法人化を契機に教員の意識変革も必要ではないか。</p> <p>地域が高専をもっと利用できる方策を検討する必要がある。</p> <p>教育、研究、社会貢献をどう教員評価につなげるか今後の課題と考える。</p>	<p>科学部や関係部署に参加依頼を行う。</p> <p>ご指摘の通りで、写真や絵、図やグラフなどを盛り込んだものにするなど工夫したい。</p> <p>全くそのとおりだと認識している。教員に対するFD活動として、平成16年度は、本校にとって評価文化元年ということで「高等専門学校をめぐる評価について」という統一テーマを設け、4回の講演会を行った。その後アンケートを実施し、次年度以降に備えた。平成17年度は、「教育改善」というテーマで、先進校の実例、授業評価の高い教員の授業参観、授業方法改善で文部科学大臣賞を受賞した本校の教員の授業の話あるいは、入学生の学力分析などについて講演会を実施中である。</p> <p>自治体など地域主催の産官学民「出逢いの場」に積極的に出席し、本校や地域連携のシステムについて紹介する。また企業回りも実施したい。</p> <p>教員及び技術職員に対する業績の自己点検評価のためのデータベースを平成17年12月に構築し、現在各自が入力中である。これをもとに、教員および技術職員の評価を行うが、研究や社会貢献の評価は行いやすいが、教育をどのように評価するかは難しく、現在他校の状況等とも拝見しながら考慮中である。</p>	<p>各種産業技術フェアや本校文化祭などと時期が重なる。</p> <p>教員個人の学術研究活動に依存し、学校として強力に推進することは困難である。</p>

平成 17 年度 第 2 回評議員会

テーマ：「学生指導と課外活動」 H17.12.20

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>社会で役立つ卒業生を送り出すため、教員のなお一層の資質向上に努力願いたい。</p> <p>デザインコンペティションが今後も続くのであれば、ロボコン、プロコン同様、来年度から振興協力会としても援助したい。</p> <p>授業方法について、メリハリをつける等、学生に集中させる工夫をお願いしたい。</p> <p>寮生の元気のよい挨拶は、高専らしくて大変良いことだと思う。折角良い習慣があるので、寮生のみではなく、より多くの学生に働きかけ学校全体が挨拶をするといった方向に発展させていただきたい。</p> <p>コミュニケーション能力の足りない子が増えている。</p> <p>どこかの段階で早いうちに見つけ、適応力を高めていかないと精神的な面での問題であり、難しいと思う。また、それを高専の教員</p>	<p>これまで教員の資質の向上をはかるための取組は、必要性がある時に、各部署単独で独立に企画・実行され、実施した効果の測定なども行われていなかったきらいがある。平成 16 年度からは、1 年間のテーマ設定をし、それに基づいて学校全体として企画・実施を行うシステムが確立され、教員の質の向上に関して PDCA のサイクルもまわせるようになった。</p> <p>今年度も振興協力会から多大な助成を頂き、感謝している。これは今後とも続く行事であるので、是非振興協力会のほうからもご支援願いたい。</p> <p>授業方法の改善には、学校あげて取り組んでいる。電気情報工学科の教員が授業方法の工夫改善で文部科学大臣賞を受賞するなど効果は現れている。</p> <p>今後、振興協力会企業会員、後援会員、同窓会員を対象とした「お試し講座」（仮称）を企画中で、教室の雰囲気改善にも役立つと思う。</p> <p>寮生だけでなく、全学生に年齢に相応しい働きかけを押し付けにならないように行いたい。</p> <p>また、学生に挨拶を奨励する以上、教職員も同様の心掛けが大切だと思っており、学校全体の運動となるようにしたい。</p> <p>コミュニケーション能力の低下は今や社会全体の問題であり、ご指摘のような問題となる学生が増えてきているように思われる。</p> <p>平成 18 年度当初にこのような学生にどう対処すべきか、研修会</p>	

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>に頼るといことは非常に難しい面があると思うので、家庭との連携を強化する必要があるのではないか。</p> <p>経済産業省が推進している、高専等活用人材育成事業などについても是非、トライしていただきたい。</p>	<p>を2回計画している。</p> <p>また、平成18年度から学生相談のカウンセラーの人員と回数を少し増やすようにした。</p> <p>さらに学生相談室では、精神面で問題のある学生の相談にのることで、自ら適応能力を涵養、改善できるように対応している。場合によっては親にカウンセリングを受けてもらうことで子供の教育、指導に役立ててもらおうようにしている。</p> <p>是非応募したいと考えている。</p>	<p>先日中国経済産業局の担当者と打合せを行ったが、県や産業振興機構の意思統一も必要かと思う。本校としては「高専等活用・・・」へのエントリを予定していたが「製造中核・・・」の方が良いのでは、との考えが示された。</p>

平成 17 年度 第 3 回評議員会

テーマ：「教育研究活動」 H18.3.30

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>教育目標の一つの感性と倫理観を養成する教育はどのように行っているのか。</p> <p>コミュニケーション能力、外国語力は重要と考えるがどのようにしているのか。</p> <p>インターンシップ5日間では短いので長期のものを検討して頂きたい。 また社会の中の現場に入れて実践的なものづくり教育ができないか。</p> <p>実践的複合的なものづくり教育を是非お願いしたい、またインターンシップ受け入れ側の指導方法について問題点があれば伺えないか。</p> <p>他高専の専攻科社会人入学生のカリキュラムはどうなっているのか。専攻科に多数の社会人を受け入れるため、柔軟な受け入れ検討をお願いしたい。</p> <p>専攻科への入学志願者が少ないのは、大学への編入学が多くこれがネックになってはいないかと思うがどうか。</p>	<p>技術者倫理科目をカリキュラムに入れたり、文科系、芸術系の課外活動や寮における集団生活、学生会活動等を通して、そのような教育を行う場を設けている。平成18年度は新たな試みとして全学生の演劇鑑賞を計画している。</p> <p>コミュニケーション能力の育成については、特に力を付けるようにしたいと思っている。 まず、本科の卒業研究発表会や専攻科の特別研究成果発表会では自分の考えていること、思っていることをペーパーを見ないで頭で考えてプレゼンできるよう指導していきたい。</p> <p>本科生全員の長期のインターンシップは受け入れ側の事情もあり難しいが、先ず専攻科生の実施に向けた検討を行っていきたい。</p> <p>問題点を与えてPBL教育等各学科で行っている。またロボコン、プロコン、デザコン等にも積極的に参加させ実践的複合的なものづくり教育の推進に努力している。</p> <p>社会人入学生のための特別なカリキュラムが組まれている例はこれまで聞いたことがない。但し、本校としても積極的に社会人を受け入れたいので、補講や集中講義等など社会人入学生に対する柔軟な対応を今後検討していきたい。</p> <p>最近では、就職が7割、進学が3割であり、そのうち1割は専攻科に進学している。大都市圏の高専では本科卒業生の大部分が進学するという高専もあるが、本校の進学率は他校に比べれば低い。</p>	<p>インターンシップについては、確かに企業によってはアルバイト的な対応をされることもある。少し配慮いただけたら有難いと考えている。</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>県内出身の学生が県内に残らないが、地元に残って欲しい希望がある、何とか方法がないのか。</p> <p>進路は本人の希望と能力と収入が合うかどうか問題で、一律に指導することには無理があるのではないか。</p> <p>振興協会の会員へ求人・求職関係の具体的な日程についてアナウンスを願いたい。</p> <p>県の公募事業や経済産業省の地域新生コンソーシアム事業等もっと増えるようどんどん応募申請していただきたい。</p> <p>機構予算が減るなか研究費の確保のため、どのような方策を立てておられるのか。</p> <p>教員研究費減などによる学生指導への影響を心配するとともに、根本的な予算減になるので今後どう対処されるのか。</p> <p>研究報告を産業振興機構、産業技術センターにも配布して欲しい。</p> <p>日本海新聞のシリーズ記事「技術で創る一地域と未来」は、地域企業の皆さんにも非常に人気のある記事である。是非米子高専もこのコーナーに投稿して欲しい。</p> <p>地元進出企業への県の開発人材育成供給方策に協力を願いたい。</p> <p>優秀な学生・人材が地元に残れる行政側の補助金システム等を構築できないか。</p>	<p>大学への進学予備校とならないように配慮しており、専攻科への進学も積極的に指導している。</p> <p>他県の大学に進学すれば益々地元に残らなくなるので、出来るだけ専攻科へ進学する方向で進めたい。</p> <p>来年度卒業生に係る求人・求職の業務は既に始まっており、例年振興協会会員の皆様からの要望がある時はすでに時期を逸していると思われる。振興協会会員においては早めの対応をお願いしたい。</p> <p>予算減となっている現状において、今後、共同研究、科研費等外部資金の研究費助成など外部資金や競争的資金の確保に一層積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>配布する。</p> <p>興味のあるコーナーと思っている。是非投稿したいと思う。</p> <p>協力できるように考えて行きたい。</p> <p>働きかけてみる。</p>	<p>対文科省等申請は行方が極めて厳しく難しくなっている。</p> <p>まず、財務省から文科省への予算自体が激減している中で通常予算額のプラスアルファ分が非常に取りにくくなっている。</p>

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>同窓会として卒業生のケア体制を考えて行きたいので何らかの協力を願いたい。</p>	<p>できるだけ協力をする。</p>	